



「この時代、精神を病まない人のほうが
変な奴だと思えますけどね」

自分が統合失調症だということを全面に出して
作家として生きていきたい。
同じ病気で苦しんでいる人に勇気を与えたり、
統合失調症に偏見を持っている人に新しい発見を
してもらいたい。



藍染製品の創造と

絵画というアートが

閉ざされた心をひらく


精神障害と向きあって

あ
い

ナレーター 緒形直人

監督 宮崎信恵

ドキュメンタリー映画 95分

助成  文化庁 文化芸術振興費補助金

文部科学省選定

厚生労働省社会保障審議会推薦

<http://www.ai-movie.net>

企画意図

精神障害は、精神症状の出現とともに、精神の機能が低下して社会生活上の様々な場面に困難が現れる障害。中でも統合失調症は急性期を過ぎてても再発を繰り返すことから不治の病とされ、精神病院への長期入院を余儀なくされてきた。しかし近年、保健福祉分野からの地域生活移行・定着への支援の重要性が認識されている。

映画の舞台になっている藍工房（就労継続支援事業所・B型）では、多くの精神障害者たちが、藍染製品や組紐など日本の伝統文化に根差した製品づくりと、全国でも珍しいフレンチレストランの「業務」に頑張

っている。さらに、彼らの日常を豊かにする絵画や陶芸といった文化的な創造の香りも：

精神障害に対する社会の偏見・差別は、今日もなお根強いものがあるが、その一因は障害に対する無知、無理解からくるものと思われる。

この作品は、日々の生活に生き難さを感じている精神障害者のありのままの日常を通して、彼らの苦しみや長いトンネルを抜けた先にある「希望」を見出していく姿を知ってもらふことで、彼らが安心して暮らせる社会の実現と、精神障害に対する人々の理解を深めることを願って製作された。

「ああ退院すること自体が大変ですよ。

先生がなかなかOKを出さないんですよ」

「自分がそうだとわかったのは
大学生のとき。入院は2、3年」

「大勢の人がいる中で、

『お前病院に行けよ』とか言われたりネタにされたり

大学も中退してしまいますので

そんなに職を選べる立場にはなかったし…」



取材協力

藍工房の皆さん/レストラン・アンシェヌ藍のみなさん/藍工房後援会のみなさん/伊豆の国アートビレッジ/芸芸春秋画廊
ギャラリー・サロンドエス/中西繁アトリエ/田中淳子（ハーブ演奏）/石川文代（ソプラノ独唱）/彩愛玲（ハーブ演奏）

スタッフ

監修：東洋大学ライフデザイン学部 白石弘巳/製作：宮崎信恵/撮影：上村四四六/照明：澤田實/技術：佐竹樹郎・中村浩一・岡田昇
編集：大高勲/音楽：十河陽一/製作デスク：宮崎千鶴/宣伝：宮崎信人/スタジオ編集：本田啓明/MA：小林一夫・三浦安和

主題歌

「巡りゆくときをこえて」/作詞：ナカジマアユミ/作曲：十河陽一/歌：都甲和香

企画：藍工房ドキュメント製作委員会・ピース・クリエイト（有）
製作・配給：ピース・クリエイト（有）

PC **ピース・クリエイト**

〒135-0051 東京都江東区枝川 3-9-10-319
TEL:03-3699-4883 FAX:03-3699-4407
WEB:<http://www.peace-create.bz-office.net>

開催日：2021年6月12日(土)13:00~6月18日(金)23:59の間に視聴できます。

視聴方法：上記期間内に本会からご案内するURLにてオンラインでご視聴ください。

料金：無料/定員：100名

申込方法：申込フォームからお申し込みください。

折返しご案内メールをお送りします。

主催：公益社団法人神奈川県社会福祉士会 県央支部

お問い合わせ：web@kacsw.or.jp <http://www.kacsw.or.jp/>

申込用QR
QRコード



映画紹介
QRコード

